

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
**実用新案登録第3146538号**  
**(U3146538)**

(45) 発行日 平成20年11月20日(2008.11.20)

(24) 登録日 平成20年10月29日(2008.10.29)

(51) Int.Cl. F 1  
**F 2 4 F 6/12 (2006.01)** F 2 4 F 6/12 1 0 1 A  
**F 0 4 D 25/08 (2006.01)** F 0 4 D 25/08 3 0 7 E

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6356 (U2008-6356)  
 (22) 出願日 平成20年9月9日(2008.9.9)

(73) 実用新案権者 508273153  
 范 宸維  
 台湾省台北縣樹林市三俊街199巷20弄  
 21號  
 (74) 代理人 100081514  
 弁理士 酒井 一  
 (74) 代理人 100082692  
 弁理士 蔵合 正博  
 (72) 考案者 范 宸維  
 台湾省台北縣樹林市三俊街199巷20弄  
 21號

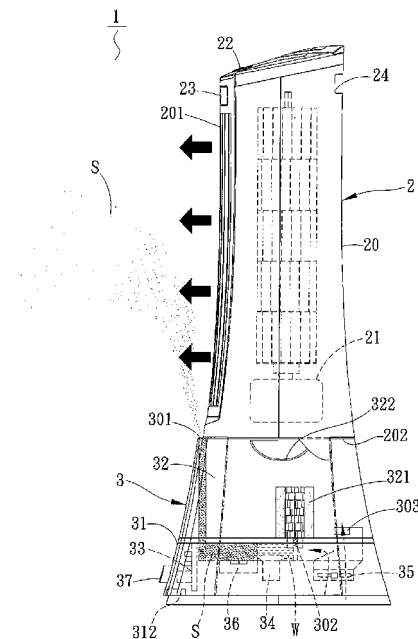
(54) 【考案の名称】 霧化扇風機

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 水の中の不純物が水霧とともに噴出することがなく安全性の向上を図り、加湿機能と扇風機能とを一体又は別体にして使用する霧化扇風機を提供する。

【解決手段】 扇風機装置2はケース20の底部側に加湿機3を導入可能な開槽202が形成され、この開槽202に加湿機3が離脱可能に取り付けられる。加湿機3は底座31と貯水槽32と制御バルブ302とを有し、扇風機装置2の通風孔201に近接する端面に噴霧口301を形成され、加湿機3の内部に加熱装置34と超音波霧化器36と導風扇35と電子制御装置33とを設置される。

【選択図】 図1



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

扇風機装置 2 と加湿器 3 とを備え、

前記扇風機装置 2 は、通風孔 2 0 1 を有する中空のケース 2 0 と、前記ケース 2 0 の中に回転可能に設置された羽根 2 1 とを備え、前記ケース 2 0 の底部側に前記加湿機 3 を導入可能な開槽 2 0 2 が形成され、

前記加湿機 3 は、底座 3 1 と、水を供給するための貯水槽 3 2 と、前記底座 3 1 と前記貯水槽 3 2 との間に設置される制御バルブ 3 0 2 とを有し、前記扇風機装置 2 の通風孔 2 0 1 に近接する端面に噴霧口 3 0 1 を形成されて、全体が前記ケースの開槽 2 0 2 に導入可能に構成され、前記加湿機 3 の内部に前記制御バルブ 3 0 2 に近接する位置で水を加熱して殺菌する加熱装置 3 4 と、前記加熱装置 3 4 に近接する位置で水を霧化する超音波霧化器 3 6 と、ミストを前記噴出口 3 0 1 に送出する導風扇 3 5 と、電子制御装置 3 3 とを設置され、

前記噴霧口 3 0 1 から噴出されるミストを前記羽根 2 1 により形成される風とともに送り出す、

ことを特徴とする霧化扇風機。

**【請求項 2】**

貯水槽 3 2 の中に水を濾過するための濾過装置 3 2 1 が設置されることを特徴とする請求項 1 に記載の霧化扇風機。

**【請求項 3】**

底座 3 1 と貯水槽 3 2 との間に前記貯水槽 3 2 の水位を感知する安全スイッチ 3 1 1 が設置されることを特徴とする請求項 1 に記載の霧化扇風機。

**【請求項 4】**

加湿機 3 の一側に導風扇 3 5 の風力を導出する出風口 3 0 3 が設置されることを特徴とする請求項 1 に記載の霧化扇風機。

**【請求項 5】**

加湿機 3 の上下の両端面に握り部 3 1 2、3 2 2 が設置されることを特徴とする請求項 1 に記載の霧化扇風機。

**【請求項 6】**

ケース 2 0 の端面に電子制御キー 2 2 が設置され、この電子制御キー 2 2 に近接して液晶操作パネル 2 3 が設置されることを特徴とする請求項 1 に記載の霧化扇風機。

**【請求項 7】**

ケース 2 0 の一側に握り部 2 4 が設置されることを特徴とする請求項 1 に記載の霧化扇風機。

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は加湿と温度を下げる必要があるところで使用する霧化扇風機に関する。

**【背景技術】****【0002】**

近年、気温の大幅な上昇により、多くの人は快適な生活環境を維持するために、エネルギーの消費が大きい、エアコンを使わざるを得ない現状があり、その一方で、国内の各種エネルギー、各種原料の値上がりの影響を受けて、物価指数の上昇、収支の不均衡、経済の悪化など、国民を取り巻く環境は悪くなるばかりで、多くの人は苦しい生活、苦しい暮らしのなかで、快適さがお金かいずれか一つを選択しなければならない。このような環境のなかで、多くの人たちが空調装置の改善に力を入れており、今、その中でも、霧化機と扇風機を兼ね備えた装置が一番注目されている。この種の装置が注目を集めているのは、エアコンほど温度を低下させる能力はないものの、環境の温度を使用者が熱すぎないと感じる程度まで低下させることができるからである。ここで一番重要なことは、エアコンよりその C/P (capability/price) の数値、いわゆる性能と価格の比がよいことで、電

10

20

30

40

50

気の消耗が低く、エネルギーを節約することを追求する今日の新しい選択となる。このような社会の影響を受けて、この霧化機と扇風機を兼ね備えた装置は温度を下げる能力はまだまだ高くないが、改良が進みつつある。この種の装置に関する技術は特許文献1などにより提案されている。この文献1の水霧式扇風機は、殻体、底座、底座の上に設置されるカバーとを備え、カバーの中に羽根が取り付けられ、底座の中に水霧装置が設置され、且つ水霧導管が接続され、殻体に供水設備が取り付けられ、且つマイクロミストを作り出す装置に必要な水を提供し、その中で、水霧導管が殻体と接続する水霧噴霧頭、この噴霧口がこの水霧導管と相通する噴霧口を有し、且つ、この噴霧口が殻体の外に向けられる構造になっている。

【0003】

【特許文献1】台湾特許特開M331585号 水霧式扇風機

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記従来の水霧式扇風機には、次のような問題がある。

(1) 霧化機の根本の問題として水の中の不純物の問題があり、これがまだ改善されていない。この不純物は水霧とともに噴出し、これが使用者の健康にある程度の危険がある。そこで、水の中の不純物が水霧とともに噴出するという問題を解決することが第1番目の課題である。

(2) 簡単に移動できる構造になっているものの、加湿機と扇風機を分離して各別単独に使用できないので、一つの機能を単独で使うときでも、装置全体をその使用場所まで移動する必要があり、非常に面倒である。また、二つの機能を同時に違う場所で使うことができない。そこで、加湿機と扇風機とを一体又は別体にして使用できないという問題を解決することが第2番目の課題である。

(3) 一般の電熱式の霧化機と超音波式の霧化機はそれぞれに長所があるが、例えば、超音波式の細菌の伝播の問題、電熱式の水垢の問題など、いまだ改善されていない問題があり、その両方の方式を兼ね備えることができない。そこで、電熱式の霧化機と超音波式の霧化機の両方の長所を有効に兼ね備えることができないという問題を解決することが第3番目の課題である。

【0005】

本考案はこのような従来の問題を解決するものであり、水の中の不純物が水霧とともに噴出することがないなど安全性を確保することができ、また、加湿機と扇風機とを一体又は別体に選択的に使用することができ、さらに電熱式の霧化機と超音波式の霧化機の両方の長所を有効に兼ね備えることができる、優れた霧化扇風機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本考案の霧化扇風機は次のような構成を備えることを特徴を備える。

[1] 扇風機装置(2)が通風孔(201)を有する中空の殻体(20)、殻(20)の中の羽根(21)から構成されており、また、殻(20)の底部に加湿機(3)が導入できる開槽(202)を設置する。

[2] 加湿機(3)は底座(31)、底座と取り合わせることにより、供水するための貯水槽(32)から構成されており、上記の開槽(202)が導入できる。

[3] 上記の加湿機の内部に電子制御装置(33)、扇風機装置(2)を近づける加湿機の端面の通風孔(201)に噴霧口(301)を設置し、且つ、上記の底座(31)と貯水槽(32)の間に制御バルブを設置し、且つ、制御バルブを近づけるとして水を加熱して殺菌する加熱装置(34)を設置し、導風扇(35)、加熱装置(34)を近づけ、また水を霧化する超音波霧化器(36)。

[4] ミストを風につれて、噴霧口から噴出することを構成されている。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 0 7 】

そして、この霧化扇風機は、さらに次のような構成を有することを特徴とする。

[ 5 ] 上記の貯水槽 ( 3 2 ) の中で水を濾過する濾過装置 ( 3 2 1 ) を設置する。

[ 6 ] 上記の底座 ( 3 1 ) と貯水槽 ( 3 2 ) の間に貯水槽 ( 3 2 ) の水位が感知できる安全スイッチ ( 3 1 1 ) を設置する。

[ 7 ] 上記の加湿機 ( 3 ) の一側に導風扇 ( 3 5 ) の風力を導出できる出風口 ( 3 0 3 ) を設置する。

[ 8 ] 上記の加湿機 ( 3 ) の上下の両端面に握り部 ( 3 1 2 ) 、 ( 3 2 2 ) を設置する。

[ 9 ] 上記の中空殻体 ( 2 0 ) の端面に電子制御キー ( 2 2 ) を設置し、近い電子制御キーに液晶操作パネル ( 2 3 ) を設置する。

10

[ 1 0 ] 上記の中空の殻体 ( 2 0 ) の一側に握り部 ( 2 4 ) を設置する。

## 【 考案の効果 】

## 【 0 0 0 8 】

本考案の霧化扇風機は、上記の各構成により、次のような作用効果を有する。

[ 1 ] この扇風機は扇風機装置 ( 2 ) と加湿機 ( 3 ) の共同に装置することにより、一層加湿の範囲を増加し、加湿機 ( 3 ) から作り出すミストが羽根 ( 2 1 ) から形成する気流につれて、噴霧口 ( 3 0 1 ) を経て噴出し、噴出するミストが羽根 ( 2 1 ) から形成する気流と室内空間に流れることにより、加湿、温度を下がり、エネルギーの負荷を低下する。

[ 2 ] この扇風機は分離式装置の加湿機 ( 3 ) 、取り付けやすく、保護しやすく、設置するコストが低く、安全性が高く、且つ、霧化の機能を有効的に控え、取り付けの濾過装置 ( 3 2 1 ) が霧化しようとなる水を濾過できることにより、水垢がたまること ( 約 1 0 % 以下 ) を控え、且つ、加熱装置 ( 3 4 ) によって、水を加熱し ( 約 6 0 ) 、微生物、細菌などを消滅する。

20

[ 3 ] この扇風機は電熱式と超音波式の長所を兼ね備え、一般的な霧化機と違い、一層水の不純物を取り除き、水をきれいに霧化され、加湿するとき、空気の品質に悪くないので、使用者の健康に影響をあたえなく、且つ、水垢のたまる比率を下げることにより、ミストの品質を守り、機械の使用年限を伸びる。

[ 4 ] この扇風機は扇風機装置 ( 2 ) と加湿機 ( 3 ) を別々に使い、加湿機能が特に必要がないとき、ミスト量を低下し、或いは、加湿機 ( 3 ) を消すとき、扇風機装置 ( 2 ) の主要な機能を影響を与えなく、且つ、本考案の操作することやきれいにすることが簡単であり、従来の扇風式加湿装置が湿っぽいことにより、細菌の繁殖の課題を妨げることがあり、加湿することを必要がないとき、加湿機 ( 3 ) を外して収納し、単独に扇風機装置 ( 2 ) を使うのがけっこうである。逆に、加湿する時も同じように扇風機装置 ( 2 ) をきれいにして収納する。

30

[ 5 ] この扇風機は加湿機 ( 3 ) の加湿機能により、湿度を 4 0 ~ 6 0 % R H の理想な状態に維持のは以下の美点を達成できる。

a . 生活の快適感、健康を上昇する。

b . 静電現象を防止する。

c . 傷口がふさがる速度を増える。

d . エネルギーの消費を下げる。

e . 消臭できる。

40

## 【 考案を実施するための最良の形態 】

## 【 0 0 0 9 】

次に、本考案を実施するための最良の形態について図を用いて説明する。図 1 は本考案の霧化扇風機の構成を示す部分断面側面図、図 2 はその部分断面正面図、図 3 はその斜視図である。

## 【 0 0 1 0 】

これらの図 1、図 2、図 3 に示すように、霧化扇風機 1 は扇風機装置 2 と加湿機 3 とを備えて構成される。扇風機装置 2 は正面に通風孔 2 0 1 を有する中空筒形のケース 2 0 と

50

、ケース 20 の中に回転可能に取り付けられる羽根 21 とを備える。この場合、羽根 21 は軸流式の扇風になっている。このケース 20 には、正面及び背面の下部が開口され、ケース 20 の底部に部品を導入するための開槽 202 が形成される。また、このケース 20 の一側壁面には握り部 24 が設けられている。加湿機 3 は底座 31 と、底座 31 上に設けられた水を供給するための貯水槽 32 とを備え、底座 31 と貯水槽 32 との間に制御バルブ 302 が設置されて、全体がケース 20 の開槽 202 に導入可能に構成される。この加湿機 3 の噴霧口 301 はケース 20 の扇風機装置 2 の通風孔 201 に近接する端面に形成され、加湿機 3 が扇風機装置 2 の開槽 202 の中に導入されると、この噴霧口 301 が少し外側に露出されるようになっている。これにより、ミスト S を噴出するときに、ミスト S が集中し、適当な位置まで束状のように噴出し、羽根 21 が吹き出し、ミスト S の排出が早すぎるので、ただ低いところまで散布することを妨げる。また、この場合、加湿機 3 を扇風機装置 2 の開槽 202 の正面から取り付け、また正面から取り出す形式にしているが、これに限定されるものではなく、加湿機 3 の弧面の形を利用し、開槽 202 の前、後端から押し出し引き出ししたりする形式にしても勿論かまわない。この加湿機 3 の底座 31 内部には、電子制御装置 33 が設置され、底座 31 と貯水槽 32 との間の制御バルブ 302 に近接して水を加熱して殺菌する加熱装置 34 が設置され、加熱装置 34 に近接して水を霧化する超音波霧化器 36 が設置され、さらにミストを噴出口 301 に送出する導風扇 35 が設置される。このようにしてミストを噴霧口 301 から噴出し、このミストを、羽根 20 の軸流式の扇風で通風孔 201 から吹出される風により送り出される構造になっている。一方、ケース 20 の端面には電子制御キー 22 が設置され、この電子制御キー 22 により、ケース 20 中の羽根 21 の運転を制御し、また、この電子制御キー 22 に近接して液晶操作パネル 23 が設置され、この液晶操作パネル 23 により、使用者に霧化扇風機 1 の運転の状態を知らせるようになっている。また、電子制御キー 22 は加湿機 3 の電子制御装置 33 に電気的に接続されて、ミスト S の速度と数量が羽根 21 で形成される風力と合わせて、ミスト S を適切に拡散し、空気の温度を調節するように構成されている。なお、この扇風機装置 2 の場合、電子制御キー 22 や加湿機 3 の制御スイッチ 37 が表面に露出されているので、使用者は操作がしやすくなっている。

#### 【0011】

また、加湿機 3 にはさらに次のような構成を有している。貯水槽 32 の中に水を濾過するための濾過装置 321 が設置され、この濾過装置 321 が制御バルブ 302 とともに、有効に水が入るかどうかが、水を入れる量を制御することにより、加湿機 3 の運転を安定させ、貯水槽 32 を変えたり、保護したり、水を加えたりするときに、この濾過装置 321 で水が貯水槽 32 から漏れることがない。また、底座 31 と貯水槽 32 との間に貯水槽 32 の水位を感知する安全スイッチ 311 が設置され、この安全スイッチ 311 で貯水槽 32 の水位の状態を感知して、適切な警告を与え、加湿機 3 が適宜反応して動作するようになっている。さらに、加湿機 3 の一側に導風扇 35 の風力を導出するための出風口 303 が設置され、この出風口 303 により、強すぎる風力が直接水 W、ミスト S を圧迫しないように風力を緩和する。水 W は加熱装置 34、超音波霧化器 36 と完全に作用し、空気の対流を促進することにより、内部の温度を調節する。またさらに、加湿機 3 の上下の両端面に握り部 312、322 が形成され、その一方の握り部 312 が底座 31 の制御スイッチ 37 の下の所に設けられて、指を加湿機 3 に延ばし入れて、この加湿機 3 を引き出すことができる。他方の握り部 322 は貯水槽 32 の頂端面に設けられ、加湿機 3 を取ったり握ったりすることが楽になる。

#### 【0012】

この霧化扇風機 1 の動作は、次のステップ 1 ~ 6 が順番に行われる。  
ステップ 1 : 水 W が濾過装置 321 により濾過され、水垢の繁殖率は 10% までになる。  
ステップ 2 : 水 W が制御バルブ 302 を経て、加湿機 3 に入る。  
ステップ 3 : 加熱装置 34 は水を 60 まで加熱し、細菌を消滅する。  
ステップ 4 : 超音波霧化器 36 が水を霧化する。

ステップ5：導風扇35によりミストSが噴出口301から噴出する。

ステップ6：ミストSは羽根21により吹き出される風とともに送り出され、室内の温度を下げ、同時に加湿する。

このステップ1～6が繰り返し続けられて、安全で、清浄なミストが作り出される。この場合、貯水槽32の濾過装置321が先に水の雑物を濾過し、続いて、加熱装置31により水を加熱し、微生物、細菌などを消滅するので、水の熱反応によりたまる水垢の繁殖率は10%程度までになり、100パーセントの消滅に近づけた効果を発揮する。このように霧化扇風機1は電熱式と超音波式の欠点を取り除き、両方式の長所のみを併せ持つことで、一般的な霧化機とはまったく違うものとなり、積極的に水の不純物を取り除き、ミストをきれいにしてミストの品質を維持するので、空気の品質に悪い影響を与えることがなく、安全性は向上し、本体の使用年限は大幅に延ばされる。また、この場合、加熱装置34で水を高温(約60℃)で殺菌するので、水の中で病菌が繁殖しにくくなり、水の病菌が霧化作用により風につれられて空気中で散布されることがない。密閉の空間で、この装置1を安心して使うことができる。このように霧化扇風機1では、加熱装置34と超音波霧化器36と併せて、水を霧化することから、過熱式と超音波式の霧化機の利点を同時に兼ね備え、その効果は大幅に上昇する。そして、この霧化扇風機1の冷房効果は現在の一般的な電熱式、超音波式の霧化扇風機のそれよりも大きいものとなる。例えば、空調装置(エアコンなど)を取り付けられた部屋で空調装置の温度設定が25℃に維持されている場合、この霧化扇風機1を使うことにより、短時間で部屋の温度を下げることができ、このとき空調装置の温度を28℃に設定しても、温度が25℃の冷房効果がある。このようにすることで、空調装置のエネルギーの消費を下げるができる。

10

20

#### 【0013】

以上説明したように、この霧化扇風機1によれば、扇風機装置2と加湿機3とを併せて備えたことにより、加湿機3により作り出され、噴霧口301を経て噴出するミストを羽根21で形成された気流とともに送り出すので、ミストが気流とともに室内空間に流れ、加湿の範囲を一層増加して加湿し、温度を下げることができ、エネルギーの負荷を低減することができる。

#### 【0014】

なお、この加湿機3の加湿機能では、湿度を40～60%RHの理想な状態に維持することができ、(1)生活の快適感、健康の上昇、(2)静電現象の防止、(3)傷口がふさがりやすくなる速度の増大、(4)エネルギーの消費の低下、(5)消臭、などの効果がある。

30

#### 【0015】

また、この霧化扇風機1は電熱式と超音波式の長所を兼ね備え、濾過装置321が霧化しようとする水を濾過することにより、水垢がたまるのを約10%以下に抑え、さらに加熱装置34によって、水を約60℃で加熱し、微生物、細菌などを消滅させるので、一般的な霧化機と異なり、水の不純物を一層有効に取り除き、水をきれいにして霧化し、加湿するときに、ミストの品質を良好に保持して、使用者の健康に悪影響を与えることがなく、しかも、機械の使用年限を延ばすことができるなど、安全性は高く、且つ、霧化の機能を有効に発揮することができる。

#### 【0016】

さらに、この霧化扇風機1では、加湿機3が分離式になっているので、扇風機装置2に取り付け又は取り外しが容易で、保護しやすく、設置コストが低いという利点がある。

40

#### 【0017】

図4にこの霧化扇風機1の別の使用例を示している。図4の場合、扇風機装置2から加湿装置3を分離して、まず加湿機3単体を乾燥した空気的环境中に置き、この加湿機3から適当な距離だけ離して扇風機装置2を置いている。このようにすると、ミストSを快速に空気中に散布して、湿度、温度を調節することができる。このように霧化扇風機1では、扇風機装置2と加湿機3の取り付け、取り外しが容易で、保護しやすく、安全性は高く、有効に霧化の機能を発揮して、加湿し、温度を下げることができ、またエネルギーの負荷を低下することができる。

50

## 【 0 0 1 8 】

また、このように扇風機装置 2 と加湿器 3 を別々に使うことで、さらに次のような利点がある。第 1 に、加湿の必要がない時期に、加湿機 3 を使わなくても、扇風機装置 2 の主要な機能に影響がないから、扇風機装置 2 を単独で使うことができる。この場合、扇風機装置 2 から加湿機 3 を取り外し、きれいにしてから収納することができる。反対に、加湿機 3 が必要な時は扇風機装置 2 から加湿機 3 を取り外して単独で使うことができる。この場合、扇風機装置 2 をきれいにしてから収納することができる。このようにして、扇風機装置 2 と加湿器 3 の使用年限を大幅に延ばすことができる。第 2 に、使用者は一方の機能を選択的に使う場合、両者を分離すれば、全体の重量を下げて、使いやすくなる。第 3 に、霧化扇風機 1 つの価格で霧化扇風機、扇風機、加湿機という三種類の機械を買え、機械一つで三種類の効用があり、十分に利便性があるので、使用者にとって、性能と価格の比 (C/P 値)、実用性など従来の霧化扇風機に比べて優れた点が多い。

10

## 【 0 0 1 9 】

以上説明したように、この霧化扇風機 1 によれば、扇風機装置 2 と加湿機 3 とを分離して別々に使えるので、加湿機能が必要でないときは、加湿機 3 を扇風機装置 2 から取り外しても、扇風機装置 2 の主要な機能に影響を与えることがなく、扇風機装置 2 を単独で使うことができる。そして、加湿機 3 は簡単にきれいにして収納することができる。この場合、加湿機 3 から湿気を容易に除去できるので、従来の扇風式加湿装置のように湿っぽく、細菌が繁殖するようなことがない。逆に、加湿機 3 が必要な時は、加湿機 3 を扇風機装置 2 から取り外して、扇風機装置 2 を同様に簡単にきれいにして収納することができる。

20

## 【 0 0 2 0 】

本考案の特徴とする構造、作用効果は以上の実施例及び図面により詳細に説明したとおりであり、この説明から明らかなように、本考案は新規性、進歩性を十分に有するので、法律に従って、実用新案登録願を提出する。また、本考案は、図面に示す好ましい実施の形態に基づいて説明したが、当業者であれば、本考案の思想を逸脱することなく容易に各種の変更、改変し得ることは明らかであり、本考案はそのような変更例も含むものである。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 2 1 】

【 図 1 】 本考案の一の実施の形態における霧化扇風機の構成を示す部分断面側面図

30

【 図 2 】 同霧化扇風機の部分断面正面図

【 図 3 】 同霧化扇風機の斜視図

【 図 4 】 同霧化扇風機の分解斜視図

## 【 符号の説明 】

## 【 0 0 2 2 】

1 霧化扇風機

2 扇風機装置

2 0 ケース

2 0 1 通風孔

2 0 2 開槽

40

2 1 羽根

2 2 電子制御キー

2 3 液晶操作パネル

2 4 握り部

3 加湿機

3 0 1 噴出口

3 0 2 制御バルブ

3 0 3 出風口

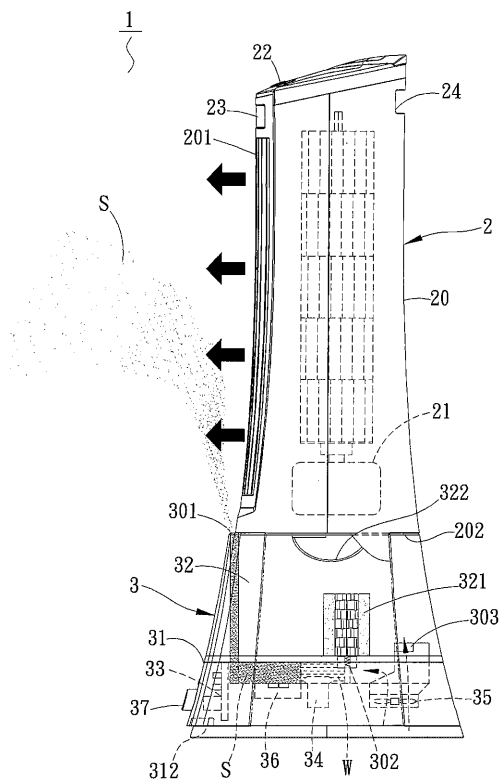
3 1 底座

3 1 1 水位安全スイッチ

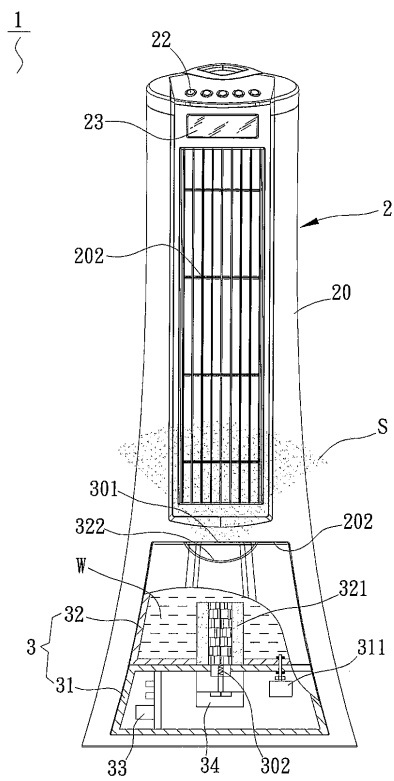
50

- 3 1 2 握り部
- 3 2 貯水槽
- 3 2 1 濾過装置
- 3 2 2 握り部
- 3 3 電子制御装置
- 3 4 電熱装置
- 3 5 導風扇
- 3 6 超音波霧化器
- 3 7 制御スイッチ
- W 水
- S ミスト

【 図 1 】

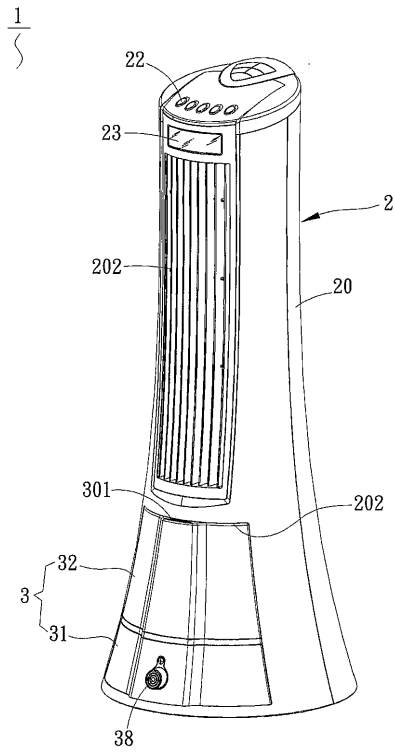


【 図 2 】





【 図 3 】



【 図 4 】

